

漫画学ことはじめ

日下, みどり
九州大学比較社会文化研究院文化空間部門・文化表象講座

<https://hdl.handle.net/2324/8763>

出版情報：日下翠教授中国文学・漫画学著作集成. 36 (3), pp.39-40, 2000-12-31. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

漫画学ことはじめ

日下みどり

○新しい学問を始めるには

社会は発展しており、今までにない物が数多く出現している。最近映画はようやく学問として認められ、アメリカの大学では研究や授業がおこなわれている。変化の激しい現代社会では、従来にない新しいものがぞくぞくと現われているが、こういったものを研究し、学問として確立するにはどうしたらよいのだろうか。

例えば「漫画」を例にとって考えてみよう。ここ、九州大学比較社会文化研究院の先生方の中で「漫画の研究を本格的にやりたい」と言う話が持ちあがった。ゼロからの出発である。新しい学問を確立するには一体どうすればよいのだろうか。

まず、研究に必要なのは研究者と資料。研究者は自分たちがなれば良いとして、問題は資料。これは図書館の協力が無ければどうしようもない。心配したが幸い六本松図書館の協力を得ることができ、ブラウジングルームに漫画を入れてもらえる事になった（ここには以前から漫画も置いてあった）。読書室の一角に書架を入れて、購入した2千冊あまりを配備してもらってなんとか形をつけることができた。しかし、これがこれから先どれだけ増えるかと思うと空恐ろしいような気になった。あと、個人の先生方が持っている貴重書（「COM」の創刊号からのセットなど）はここに置くわけにはいかないため、それをどうするかもこれから解決してゆかねばならない課題である。



大学院比較社会文化研究院 日下みどり教授

○教育と人材養成 まず教科書を

研究は研究者と資料があればできるが、大学にはあと一つ大事な役目がある。「教育」である。若い研究者を養成してゆかねば未来はない。それはまた、大学の大事な社会的責任でもある。それにはきちんとした授業が必要だが、仲間の先生方も私も全員漫画では素人ばかり。何をどう教えたら良いのか見当もつかない。そこで、まず教科書を作ることにした。漫画を使ってこういうこともできますよ、というサンプルのつもりでテキストを書いたのが『漫画学のススメ』（白帝社）である。準備に二年かかったが、在外研究で上海に十ヶ月滞在できたことも幸いし、本の第Ⅲ章に「中国語圏漫画の現在」の章を加えることができた。まとまった中国語圏漫画研究としては日本で初めてのものである。

これで何とか授業を始めるめどがつき、この四月から「漫画学講座」を開くことにした。「人材」の確保が大事であるが、ふたを開けてみると、留学生を始め意欲的な九人の学生が集まり、ほっと胸をなでおろしたものであった。

○成果をあげる 社会的容認を

「漫画学」はようやく始まったばかりである。これからは社会の容認を得る（まだ「漫画学」などいっても誰にも相手にされないだろう）ことが肝心であるが、それには成果をあげねばならない。毎年少しずつでも、本なり論文なりを出して成果を社会に還元してゆく（他の研究者が使えるような資料の



漫画学講座の学生たちと

整理、論文の発表を行う)ことが大事であるが、これについては夏休み明けの学生のレポートにも「台湾少女漫画白書」や「漫画の中の大阪弁」(日本語研究の学生による)など、レベルの高いものが出てきており、大いに自信を深めているところである。まずは上々の滑り出しといえるだろう。

あと一つ、研究に大事なものがある。「研究の意義」であるが、もうそれはここに書く必要は無いだろう。日本はすでに小さいときから漫画を読んで育った「手塚治虫の子供たち」が人口の大半を占め館)

るようになったのだから。

(くさか みどり 大学院比較社会文化研究院教授)

図書館から：六本松分館では漫画及び漫画論を「日本十進分類法 第9版」により分類、配架しています。漫画は館内閲覧のみです。

726 漫画、挿絵、童画 Caricatures, Illustration

726 .1 漫画、劇画、風刺画 ブラウジングルーム配架

726 .101 漫画・劇画論、風刺画論 開架室配架